

印西市教育DX推進計画概要

令和7年度～令和10年度

印西市教育委員会

内容



- 01 » 印西市教育DX推進計画概要
- 02 » 計画の策定にあたって
- 03 » 目指す姿と施策
- 04 » 補足資料

01

印西市教育DX推進計画概要

印西市教育DX推進計画

印西市 教育DX推進計画概要版

第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の趣旨
教育DXの実現に向け、学校教育において目指す姿や取組の道筋をすべての教職員と教育委員会が共有するために策定
2. 計画の位置づけ
「印西市DX推進方針」や「印西市教育振興基本計画」との整合を図りながら教育DXの実現に向けた施策を総合的に実施するための計画
3. 推進の3原則
① 方向づけ ② 連携 ③ 創造

第2章 現状と課題

1. これまでの教育の情報化推進状況
アンケートによる調査等により明らかになった課題は以下のとおり
・ ICT環境基盤支援の充実とネットワーク環境の見直し
・ 児童生徒が自ら進んで学習する、自律的な学習者となるための支援の在り方
・ 教科横断的な視点での情報活用能力の育成の在り方
・ 学習者中心の学びデザインに向けた教員の授業観・役割の変容の必要性
・ ICT活用を前提とした業務プロセスの見直し

第3章 教育DXの施策

目指す姿

子ども ■寄り添い支え、深い学びを創る ■創造性と批判的思考を引き出す ■効率と革新で、共に学び続ける
教職員 ■協働し未来を拓く ■個性を輝かせ、価値を創造する ■学び続け、社会に積極的に関わる

視点1 学びの革新

施策	具体的取組
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	・ ICTを活用した個別最適な学びの推進 ・ 他者との交流を活かした協働的な学びの推進 ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
STEAMと情報の活用を統合的に学ぶ先進的な情報教育の推進	・ 情報活用能力の整理と体系化 ・ 教科等横断的な情報活用能力の育成 ・ 先進的な情報教育カリキュラム開発 ・ 情報教育支援体制強化 ・ STEAM Labの整備
学びの困難さの軽減や多様な学習機会の確保、心の居場所づくり	・ クラウドサービス活用による包括的な支援 ・ AI学習システムによる学習支援 ・ 新たなコミュニケーションツールの導入 ・ 専門家と連携したサポートシステム検討 ・ 先端技術を活用した支援対応検討

視点2 校務DX

施策	具体的取組
業務プロセス最適化とデータ活用	・ 業務プロセスの効率化と最適化 ・ デジタル採点・AI学習システムの活用 ・ データを活用した学校経営の推進 ・ デジタル連絡システムの活用 ・ 校務での生成AI活用促進
教職員の資質・能力向上に関する研修の充実	・ 組織体制強化とリーダーシップ育成 ・ 主体的な学びへの転換を支える研修の実施 ・ 自己調整学習のモデル事例共有と実践の蓄積 ・ 先進的な情報教育推進のための研修の実施 ・ 業務プロセス改善のための研修の実施 ・ データを活用した学校経営の支援 ・ 多様なニーズに応える研修コンテンツの提供 ・ 調査結果に基づく研修の実施

視点3 ICT環境整備

施策	具体的取組
校務系・学習系ネットワーク統合とシステム構築	・ 情報端末の定期的な更新 ・ 高速大容量通信環境の整備 ・ 校務系・学習系ネットワークの統合 ・ 統合型校務システムと学習システムの更改 ・ デジタル連絡システム改善 ・ デジタル採点・AIシステムの導入 ・ 学校徴収金のシステム化 ・ ガイドライン整備 ・ 運営支援体制の構築 ・ クラウド基盤の柔軟かつ安全な業務促進
データ連携基盤の創出	・ データ統合と運用基盤の整備 ・ 教育相談を支える連携基盤整備 ・ データを活用した学校経営の推進 ・ 自己調整学習の促進 ・ データ連携を支えるセキュリティ体制構築

第4章 計画の推進に向けて

1. 計画の進捗管理
施策の進捗状況や目標の達成状況を確認するため、年に1回現状調査を実施し、その結果については、関係各課によって組織される印西市ICT活用推進委員会やICT基盤整備検討委員会で報告し、進捗管理。
2. 評価指標と目標値
本計画における施策の実効性を高めるために、以下のとおり評価指標と目標値を設定

02

計画の策定にあたって

印西市教育DX推進計画

印西市 教育DX推進計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

教育DXの実現に向け、学校教育において目指す姿や取組の道筋をすべての教職員と教育委員会が共有するために策定

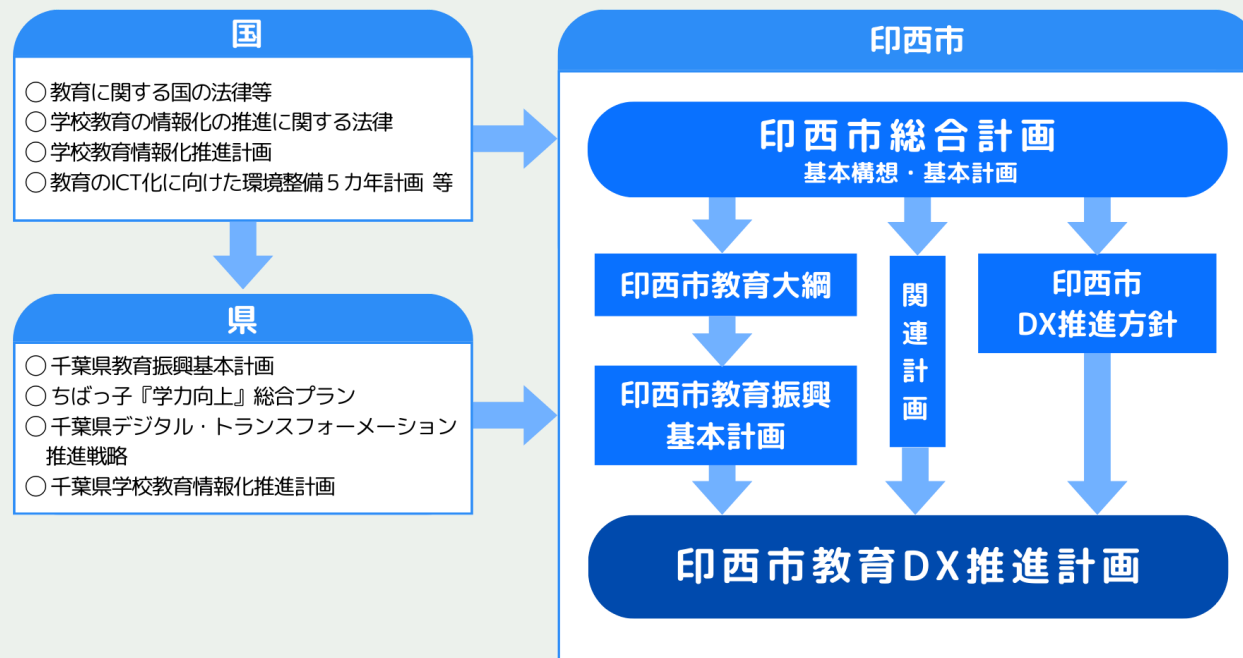
2. 計画の位置づけ

「印西市DX推進方針」や「印西市教育振興基本計画」との整合を図りながら教育DXの実現に向けた施策を総合的に実施するための計画

3. 推進の3原則

「印西市DX 3原則」を継承した「印西市教育DX 3原則」の策定およびその理念に基づく取組

計画の位置づけ



印西市教育DX 3原則

方向付け

ICTを活用し、校務プロセスの見直しを行うとともに、創造的な学びの実現を目指す。

連携

学校教育を社会に開かれた視点で捉え、地域や社会と連携して「よりよい社会を創る」という目標を共有し、これからの社会を創る担う子どもに必要な資質・能力を育む教育を推進する。

創造

子どもや保護者、教職員それぞれの視点を尊重し、学びの質や利便性の向上、時間の有効活用を実現する新たな価値を創造する。

03

目指す姿と施策

印西市教育DX推進計画

子ども

- 協働し、創造し、未来を拓く
- 個性を輝かせ、価値を創造する
- 学び続け、社会に積極的に関わる



- ★多様な周りの人と協働し、テクノロジーや情報の活用を工夫・改善しながら、実際の問題発見・解決に挑戦する姿
- ★プログラミングやデータ分析など、情報の活用を通じて、個性あふれるアイデアを形にし、新たな価値を創造する姿
- ★「なぜ学ぶのか」を理解し、新しいテクノロジーにも積極的に向き合い、情報をよりよく使い、社会に対して責任をもって関わるために必要なことを学び続ける姿

教職員

- 寄り添い支え、深い学びを創る
- 創造性と批判的思考を引き出す
- 効率と革新で、共に学び続ける



- ★子どもに丁寧に寄り添い、テクノロジーや情報の活用を工夫・改善しながら、主体的・対話的で深い学びを支援する姿
- ★新たな学習観に立ち、最新の教育技術や方法を積極的に取り入れ、子どもたちの創造性と批判的思考を引き出すよう支援する姿
- ★校務効率化や学校の組織風土・組織文化の変革を通して、健康で心豊かな生活の中で自らも生き生きと学び続ける姿

1

学びの変革



- ① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ② STEAMと情報の活用を統合的に学ぶ先進的な情報教育の推進
- ③ 学びの困難さの軽減や多様な学習機会の確保、心の居場所づくり

2

校務DX



- ④ 業務プロセス最適化とデータ活用
- ⑤ 教職員の資質・能力向上に関する研修の充実

3

ICT環境整備

- ⑥ 校務系・学習系ネットワーク統合とシステム構築
- ⑦ データ連携基盤の創出



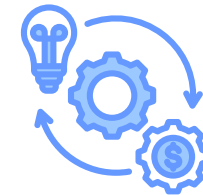
学校

視点 1 学びの变革

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- STEAMと情報の活用を統合的に学ぶ先進的な情報教育の推進
- 学びの困難さの軽減や多様な学習機会の確保、心の居場所づくり

視点 2 校務DX

- 業務プロセス最適化とデータ活用
- 教職員の資質能力向上に関する研修の充実



保護者・地域



コミュニケーション充実
相互支援

市教育委員会

市DX推進課等

視点 1 学びの变革



- 情報活用能力の整理と体系化
- 先進的な情報教育カリキュラム開発
- 自己調整学習モデル創出
- 情報教育支援体制強化
- 教職員ポータルサイト構築
- 学びの「時間」と「空間」の多様化モデル創出 等

視点 2 校務DX



- 教育委員会所管の業務改善
- 統合型校務システム活用支援
- 教職員・保護者・児童生徒間のデジタル連絡システム活用
- 校務での生成AI活用モデル創出
- 多様なニーズに応える研修提供
- データを活用した学校経営支援 等

視点 3 ICT環境整備



- 情報端末の定期的更新
- 高速大容量通信環境の整備
- データ連携基盤ダッシュボード構築
- 校務系・学習系ネットワーク統合
- ICT支援員を含む運営支援体制構築
- 多様な学びを支えるAI学習システム
- 生成AI等の高度技術活用に関するガイドライン整備 等

施策① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

方向性

様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことも大切にしながら、ICTを状況に合わせて最大限活用することで今までにない方法で、個々の特性等にあった多様な方法で学習を進めたり、多様な人たちと協働しながら学習を行ったりすることができるようにするなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて単元・授業を改善します。

また、子ども一人ひとりの自分らしい学びの実現に向けて、教員主導の教え込み型の授業から、子どもの個性に応じた主体的な学びに伴走し支援する授業への転換を着実に進めます。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策① 個別最適な学 びと協働的な 学びの一体的 な充実					
	★個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 好事例創出	学びの拡充			

施策② STEAMと情報の活用を統合的に学ぶ先進的な情報教育の推進

方向性

「社会とのつながり」を意識した探究的なプロセスにおいて、STEAMや情報の活用、学び方を統合的に学ぶ情報教育を推進します。これにより、子どもたちが多様な視点や代替案を考慮した問題の発見・解決や新たな価値の創造に取り組み、持続可能な社会の創り手となるための「情報活用能力」を高められるようにします。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策② STEAMと 情報の活用を 統合的に学ぶ 先進的な情報 教育の推進	 ★情報活用能力の整理と体系化				★STEAM Labの整備
	 ★教科等横断的な情報活用能力の育成				
	 ★先進的な情報教育カリキュラム モデル校実践		 全市内展開		
	 ★情報教育支援体制強化				

※ STEAM：科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義したもの

施策③ 学びの困難さの軽減や多様な学習機会の確保、心の居場所づくり

方向性

話す・聞くなどの認知・コミュニケーション等に困り感がある子ども、不登校・不登校傾向の子ども、家庭環境に困難がある子ども、特定の分野で高い能力を有しているが配慮や支援が必要な子どもなど、すべての子どもがそれぞれの特性を持っていることを前提に、ICTを活用した個別最適化を積極的に行い、一人ひとりの能力・可能性を最大限に伸ばすよう特性に応じた支援の充実を図ります。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策③ 学びの困難さの軽減や多様な学習機会の確保、心の居場所づくり	★クラウドサービスによる包括的な支援				★新たなコミュニケーションツールの導入
		★AI学習システムによる学習支援			★専門家と連携したサポートシステム検討 ★先端技術を活用した支援対応検討

※ クラウドサービス：インターネットを通じて、データを保存したり、アプリやシステムを利用したりできるサービス

施策④ 業務プロセス最適化とデータ活用

方向性

学びの変革の相似形として校務DXを捉え、紙ベースの校務を単にデジタルに置き換えるのではなく、クラウド環境を活用して業務プロセスを抜本的に見直し、データ連携を通じた新たな学びの実現や学校経営の高度化を目指します。また、これにより教職員が教育活動に専念できる環境を整え、児童生徒一人ひとりにより深く向き合える時間の創出を図ります。さらに、学校と家庭、地域との連携をICTで支援し、教育コミュニティ全体の活性化にもつなげます。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策④ 業務プロセス 最適化とデータ活用	★業務プロセスの効率化		★統合型校務システム更改・活用による 業務プロセス最適化		
	★デジタル採点	★AI学習システムの活用			
				★データを活用した 学校経営の推進	
		★デジタル連絡 システムの活用 (モデル校展開)	全市内展開		
	★校務での 生成AI活用 (好事例創出)	★校務での生成AI活用促進			

施策⑤ 教職員の資質・能力向上に関する研修の充実

方向性

主体的・対話的で深い学びを実現するため、教員主導の教え込み型から、子どもの主体的な学びを支援するファシリテーターへの転換を進め、教員の授業力向上を図ります。また、情報教育の充実に加え、校務プロセスの改善や学校運営の高度化を支援する研修を推進し、実践的な支援体制の強化を通じて、教職員の資質・能力の向上を目指します。

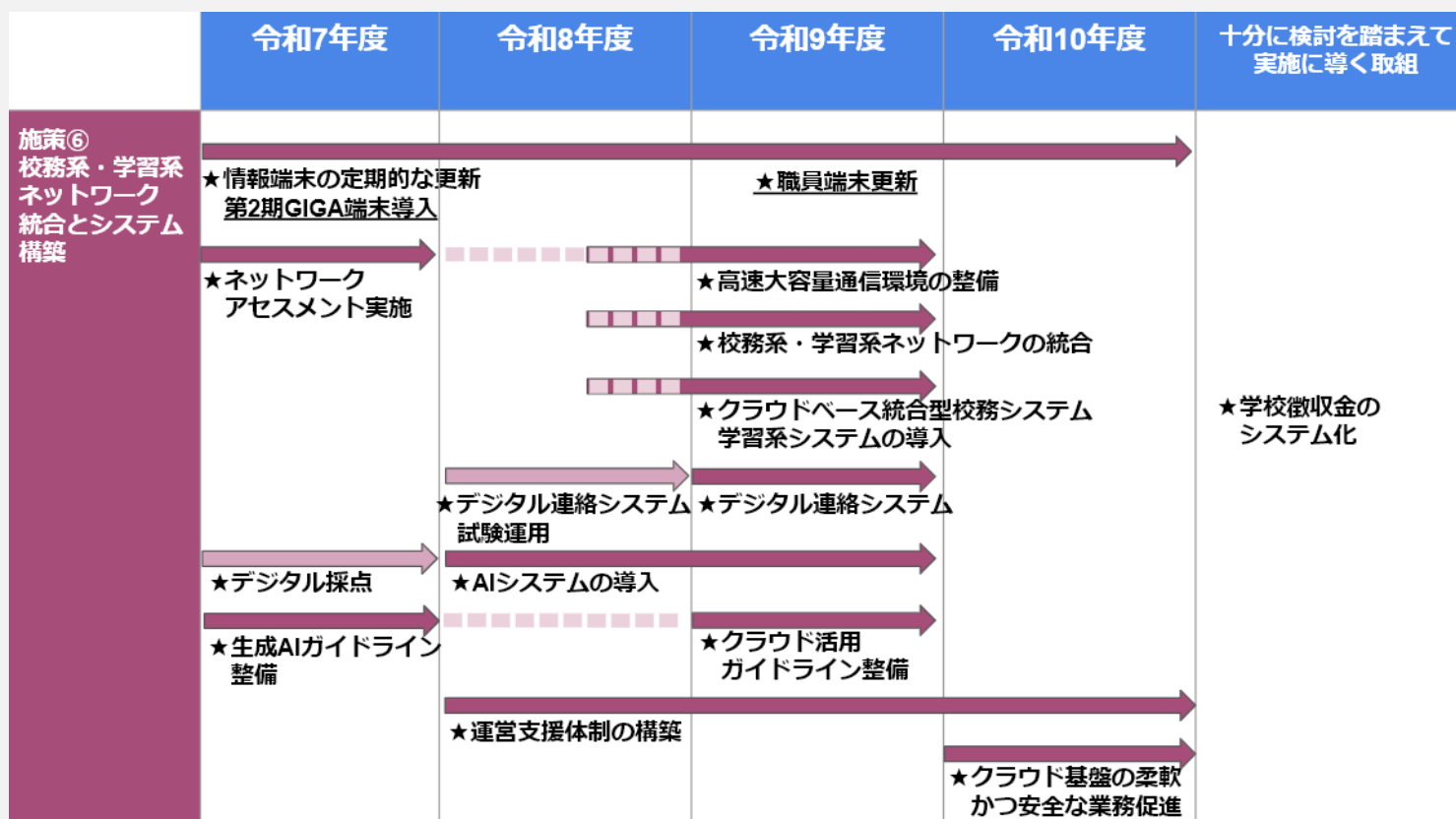
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策⑤ 教職員の 資質・能力 向上に関する 研修の充実	★組織体制強化とリーダーシップ育成				
	★主体的な学びへの転換を支える研修の実施				
	★自己調整学習のモデル事例共有と実践		★自己調整学習の実践蓄積		
	★先進的な情報教育推進のための研修の実施 (モデル校実施)		★先進的な情報教育推進のための研修充実		
	★業務プロセス改善のための研修の実施				
			★データを活用した学校経営の支援		
	★多様なニーズに 応える研修の在り方 検討	★多様なニーズに応える研修コンテンツの提供			
	★調査結果に基づく研修の実施				

施策⑥ 校務系・学習系ネットワーク統合とシステム構築

方向性

持続可能な1人1台の情報端末の更新を進めるとともに、現在分離している校務系と学習系のネットワーク構成を統合し、セキュリティの高いネットワーク環境を構築します。

これにより、子どもおよび教職員がクラウド上のデータを日常的に効果的かつ安全に活用できる環境を整備します。また、学校全体のDXを推進し、教育の質のさらなる向上を図ります。

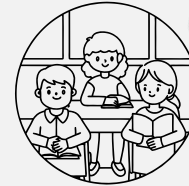


施策⑦ データ連携基盤の創出

方向性

エビデンスに基づいた教育を理解し、データ活用による新しい時代に適した学校経営や授業を常に追求します。子どもが自分の強みや弱点を客観的に把握し、興味のある分野を発展的に学習し、苦手分野の克服や復習のために必要な学習ができるようにします。さらに、学校は子ども一人ひとりに関する様々なデータを一目で把握し、特に支援が必要な子どもを早期発見し、児童生徒の特性や能力に応じた学習支援などを行います。また、データに基づく学校経営により、効果的な意思決定や業務の効率化、教職員間の協働を促進します。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	十分に検討を踏まえて 実施に導く取組
施策⑦ データ連携基 盤の創出			 ★データ連携基盤と運用基盤の構築		★教育相談を支える 連携基盤整備
			 ★データ連携を支えるセキュリティ体制の構築		



STAGE 1

令和7年度

- ・個別最適な学びと協働的な学びの好事例創出
- ・教科等横断的な情報活用能力の育成
- ・先進的な情報教育カリキュラム開発
- ・クラウドサービスの有効活用 等

★モデル校実施（2中学校区）

2025

STAGE 2

令和8年度

- ・個別最適な学びと協働的な学びの拡充
- ・教科等横断的な情報活用能力の育成
- ・先進的な情報教育カリキュラム開発
- ★モデル校実施（5中学校区）
- ・第2期GIGA端末利用開始
- ・AI学習システムによる業務効率化と指導充実 等

2026

授業観・の役割変容

校務プロセス転換

STAGE 3

令和9年度

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・先進的な情報教育カリキュラム改善
- ★全市内展開（9中学校区）
- ・校務系&学習系ネットワーク統合
- ・データ連携基盤とダッシュボード機能構築
- ・教職員&保護者&児童生徒間連絡システム改善 等

2027

新たな価値の
創造に向けた
実社会に
つながる学び

STAGE 4

令和10年度

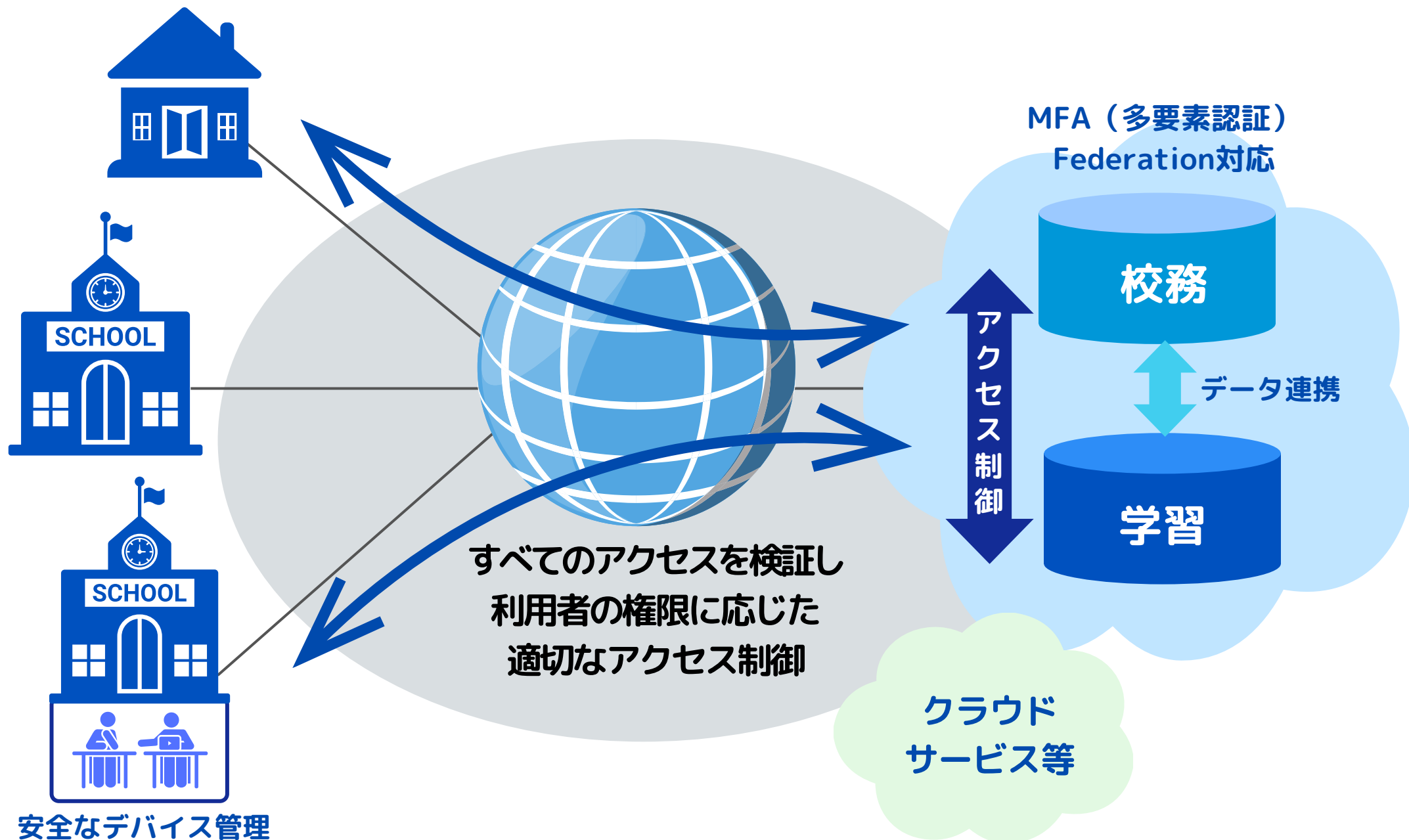
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ・先進的な情報教育カリキュラム拡充
- ・データを活用した学校経営モデル創出
- ・データ駆動型の個別支援の推進 等

2028

04

補足資料

印西市教育DX推進計画



ICAMによるアクセス制御の仕組み

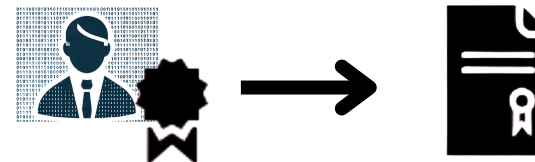
ICAMとは、利用者の身元を確認し（アイデンティティ管理）、適切な資格情報を発行・更新・削除し（認証情報管理）、情報やシステムへのアクセスを制御する（アクセス管理）ことで、安全で円滑なデジタル環境を実現する仕組み。

IDENTITY MANAGEMENT (アイデンティティ管理)



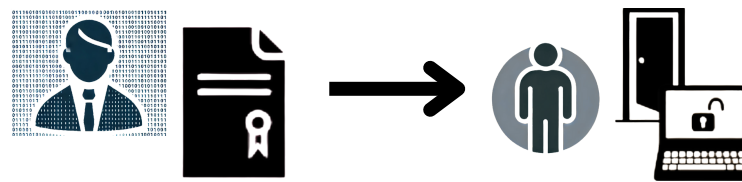
子どもや教職員の特定の属性に基づいて、信頼できるデジタルアイデンティティを構築・維持する

CREDENTIAL MANAGEMENT (認証情報管理)



デジタルアイデンティティに関連付けられたクレデンシャル（認証情報）を発行、更新、削除する

ACCESS MANAGEMENT (アクセス管理)



信頼されたアイデンティティと認証情報を活用し、許可された個人のみが保護されたリソースにアクセス

Federation (フェデレーション)

他の機関によって管理されるデジタルアイデンティティや認証情報を受け入れ連携させる

Governance (ガバナンス)

計画的に意思決定を行い、ルールを管理し、業務の効率を向上させる

